

<私の信頼の的>

詩篇71：1～14

【四苦八苦】

四苦 生老病死

生きることの苦しみ
 老いることの苦しみ
 病むことの苦しみ
 死の苦しみ

八苦

愛別離苦 (愛するものと別れる苦しみ)
 怨憎会苦 (憎むものと出会う苦しみ)・
 求不得苦 (求めても得られない苦しみ)
 五陰盛苦 (心身の苦痛)



気持が老け込むと・・・

前を向いて明日を迎えるのではなく、明日に背中を向けて、明日を迎えようとする。

これは年齢に関係ない？！

信仰に生きる人は・・・夢を見る

その後、わたしは、わたしの霊をすべての人に注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、
 年寄りや夢を見、若い男は幻を見る。 ヨエル2：8 → 使徒2：17

◆様々な面で欠けや弱さを覚え、心細さを感じる年代になってから、自分が買ってきた人生観を揺るがすような状況に見舞われたらどうなってしまのか。頼りにしていた拠り所が崩れてしまった時に、自分を救い出してくれる神がない、そのような神を知らないとしたらどうするだろうか。

この詩篇の作者は、平安で穏やかな老後ではなかった。自分を苦しめる「悪者の手」「不正をする者や残虐な者の手」によって苦しみを受けていた。

何度も繰り返し発せられる

rescue me!

save me!

救い出して!

救って!

普通なら、絶望するような状況。しかし・・・

この人は、自分が今まで歩んできた信仰の旅路を振り返り、自分を育ててくださった神の豊かな恵みを見だし続けて、絶望と闘った。

神なる主よ。あなたは、私の若いころからの私の望み、私の信頼的です。【5 節】

神である主よ。あなたはわたしの望み 若い日からの拠り所。 2017 年版

一番恐れていたことは、敵の存在や苦難ではなく、神への信頼を失ってしまう事！

私の敵が、わたしのことを話し合い、私のいのちを付け狙うものどもが共に企んでいるからです。彼らはこうしている。「神は彼を見捨てたのだ。追いかけて、彼を捕らえよ。救い出す者はいないから。」 【11 節】

◆どんな苦難に遭っても主を拠り所とするなら、希望に生きることができる。

けれど、神への信頼を失ってしまったなら、「神はわが岩、わが砦」という確信を失ってしまうなら、望みを見いだすことはもはやできない。

神よ。あなたは、私の若いころから、私を教えてくださいました。私は今もなお、あなたの奇しいわざを告げ知らせています。年老いて、しらがになっても、神よ、私を捨てないでください。私はなおも、あなたの力を次の世代に、あなたの大能のわざを、後に来るすべての者につけ知らせます。 【17、18 節】

「希望の根拠」は、今までの信仰の歩み、生きておられる主との歩みの中にある！

私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか……私はこう確信しています。死ぬ、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできません。

□-マ8：35～39